

CHP

◆CHP 全体

<p>1, 2 月</p>	<p>◇ SDGs 貢献プラットフォーム (参照) http://njppp.jp/project/ 海外活動におけるプラットフォーム形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フィリピン：「フィリピン米の栄養強化プロジェクト 2021 (調査研究)」 栄養強化米の展開に関する予備調査を強化米販売企業(DSM株式会社)と共同でWFP (World Food Programme) フィリピンに依頼し推進中。 ●ベトナム：「ベトナムでの健康食品活用及び野菜・果実摂取に関する基礎調査」 野菜を用いた健康食品展開を推進している企業(カゴメ株式会社)と共同でNJPPP に新規プロジェクトとして承認された(2月3日)。食品産業センター、ベトナム国立栄養研究所と推進中。 <p>◇SUN Business Network Japan (SBNJ) 事務局設立検討 SUN Business Network 共同議長のWFP、および農林水産省と意見交換。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>◇SDGs 貢献プラットフォーム</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国内活動におけるプラットフォーム形成 ② 海外活動におけるプラットフォーム形成 <ul style="list-style-type: none"> ●フィリピン：「フィリピン米の栄養強化プロジェクト 2021 (調査研究)」 現地で調査を実施したフィリピンリサーチチームも交え、作業状況確認のためWeb 会議を実施。経費も含め、報告書を作成し提出(3月18日)。 ●ベトナム：「ベトナムでの健康食品活用及び野菜・果実摂取に関する基礎調査」 <ol style="list-style-type: none"> ① ベトナム国立栄養研究所(NIN) 担当者から報告書を受領し、Executive summary (日本語訳)を作成し、最終報告書をNJPPPに提出(3月24日)。 ② 昨年度の基礎調査を発展させる形で、NINと協力し、野菜ジュース等を用いた実証試験を計画。NJPPPへの提案で合意(4月20日)。 <p>◇SUN Business Network Japan (SBNJ) 事務局設立検討 SBN 共同議長のWFP (World Food Programme) 日本(運営内容)並びに農林水産省(予算措置等)と意見交換。</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>◇SDGs 貢献プラットフォーム</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国内活動におけるプラットフォーム形成 ② 海外活動におけるプラットフォーム形成 <ul style="list-style-type: none"> ●フィリピン：「フィリピンでの栄養強化米プロジェクト 2021 (調査研究)」のフォロー 栄養強化米を普及する上で仮説検証も含めたプロジェクト立案を目指し、マルチ微量栄養素強化米製造会社との打合せを設定。 ●ベトナム：「ベトナムでの健康食品活用及び野菜・果実摂取に関する基礎調査」のフォロー 野菜摂取啓発に向け、野菜ジュースを用いた実証試験を計画。プロジェクト概略についてベトナム国立栄養研究所(NIN)を通じた発信を計画。ILSI Japanとして、NIN

	<p>とのルートを生かし、参画できる部分を検討中。</p> <p>●栄養啓発活動推進との協働プロジェクト ブロックチェーン技術を使った栄養啓発活動と、他の（栄養改善）プロジェクトとの併用について提案。以前、啓発活動プロジェクトを進めた企業に打診したところ、継続的な栄養改善活動を望んでいるとの返事あり。</p> <p>◇SUN Business Network Japan（SBNJ）事務局設立検討 SBN 共同議長の WFP（World Food Programme）日本と運営内容について、並びに農林水産省と予算措置等について検討し、さらにグローバルメンバーと意見交換を継続。</p>
7, 8 月	<p>◇SDGs 貢献プラットフォーム</p> <p>① 国内活動におけるプラットフォーム形成 ② 海外活動におけるプラットフォーム形成</p> <p>●フィリピン：「フィリピンでの栄養強化米プロジェクト 2021（調査研究）」のフォロー フィリピン市場における栄養強化米の認識向上及びニーズ把握に向けたプロポーザル策定を検討。フィリピン国立食品栄養研究所（FNRI）と協力して推進する。</p> <p>●ベトナム：「ベトナムでの健康食品活用及び野菜・果実摂取に関する基礎調査」のフォロー 野菜摂取啓発に向け、実証試験を計画。栄養教育推進プロジェクトを展開している企業との協働プロジェクトを模索。対象者の行動変容、栄養改善におけるシナジー効果を期待する。行動変容の成果指標設定において ILSI Japan が関与する。</p> <p>◇SUN Business Network Japan（SBNJ）事務局設立検討 SBN 連絡事務所設立に向け、予算措置対応（財務省）及び実際の役割、業務内容について、農林水産省、WFP（World Food Programme）と打ち合わせ。本年度中の設立披露を目標とする。</p>
9, 10 月	<p>◇SDGs 貢献プラットフォーム</p> <p>① 国内活動におけるプラットフォーム形成 ② 海外活動におけるプラットフォーム形成</p> <p>●フィリピン：「フィリピンでの栄養強化米プロジェクト 2022（調査研究）」 フィリピン国立食品栄養研究所（FNRI）に、① マルチ微量栄養素（MMN）強化米についての科学的エビデンスについての文献レビュー、② フィリピンの栄養問題に関する状況を考慮した MMN 強化米導入のメリット、意義に関する調査、を本年度の NJPPP へのプロポーザルとする方向で調整。</p> <p>●ベトナム：「ベトナムでの健康食品活用及び野菜・果実摂取に関する基礎調査」のフォロー 本年度 NJPPP へのプロジェクト提案（野菜摂取啓発）に向け議論。昨年度プロジェクトを進展させる形で、対象数を増やし、健康志向/野菜摂取等に関するアンケートの実施を計画。本年中に NJPPP に申請を検討。ILSI Japan 関与の形を見出す。</p> <p>●ミャンマー：「スマホを用いた栄養リテラシー向上プロジェクト」 本年度プロジェクト展開の可能性について関連企業と打ち合わせ。導入現地企業の候補、リモート操作でのプロジェクト展開について検討。</p> <p>◇SUN Business Network Japan（SBNJ）事務局設立検討 SBNJ という正式な支部設立が難しい状況下、SBN 戦略パートナーとして情報交換する機能を NJPPP に付与する形で SBN 本部と承認書を取り交わす方向で議論。ILSI</p>

	Japan への委託事業としての可能性を検討。
11, 12 月	<p>◇SDGs 貢献プラットフォーム</p> <p>① 国内活動におけるプラットフォーム形成</p> <p>② 海外活動におけるプラットフォーム形成</p> <p>●フィリピン：「フィリピンでの栄養強化米プロジェクト 2022（調査研究）」 フィリピン国立食品栄養研究所（FNRI）への委託プロジェクトとして本年度 NJPPP へ提案。作業部会（12/21）、運営委員会（12/28）で承認された。</p> <p>●ベトナム：「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」 本プロジェクトのターゲットが、対象者のパーソナリティと食事の多様性との関連であることを確認。その指標として、ベトナム版 Take10 を利用。NJPPP に提案書を提出し、作業部会（12/21）、運営委員会（12/28）で承認された。</p> <p>●ミャンマー：「完全オンラインによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教育」</p> <p>① 本栄養リテラシー向上プロジェクトをミャンマーでの実施に向け、NJPPP 提案書を提出し、作業部会（12/21）、運営委員会（12/28）で承認された。</p> <p>② ミャンマーでのプロジェクト展開について、農林水産省と再度検討し、本年度は、外務省の判断もあり、そのまま進めるが、来年以降は再考が必要という結論に。</p> <p>◇SUN Business Network Japan（SBNJ）事務局設立検討</p> <p>●SBN は、SUN Movement の4つのネットワークの一つ（ビジネスセクター）として設立。SUN Movement 事務局と第22回国際栄養学会議時に面談。NJPPP の参加資格、NGO の参加メリット等について情報交換。</p>